



たてやま おらがんまつり

2014.3 No.20

南総祭礼研究会



館山市北条地区 高井

地域の紹介



新興住宅地でありながらも田畑が広がる高井地区

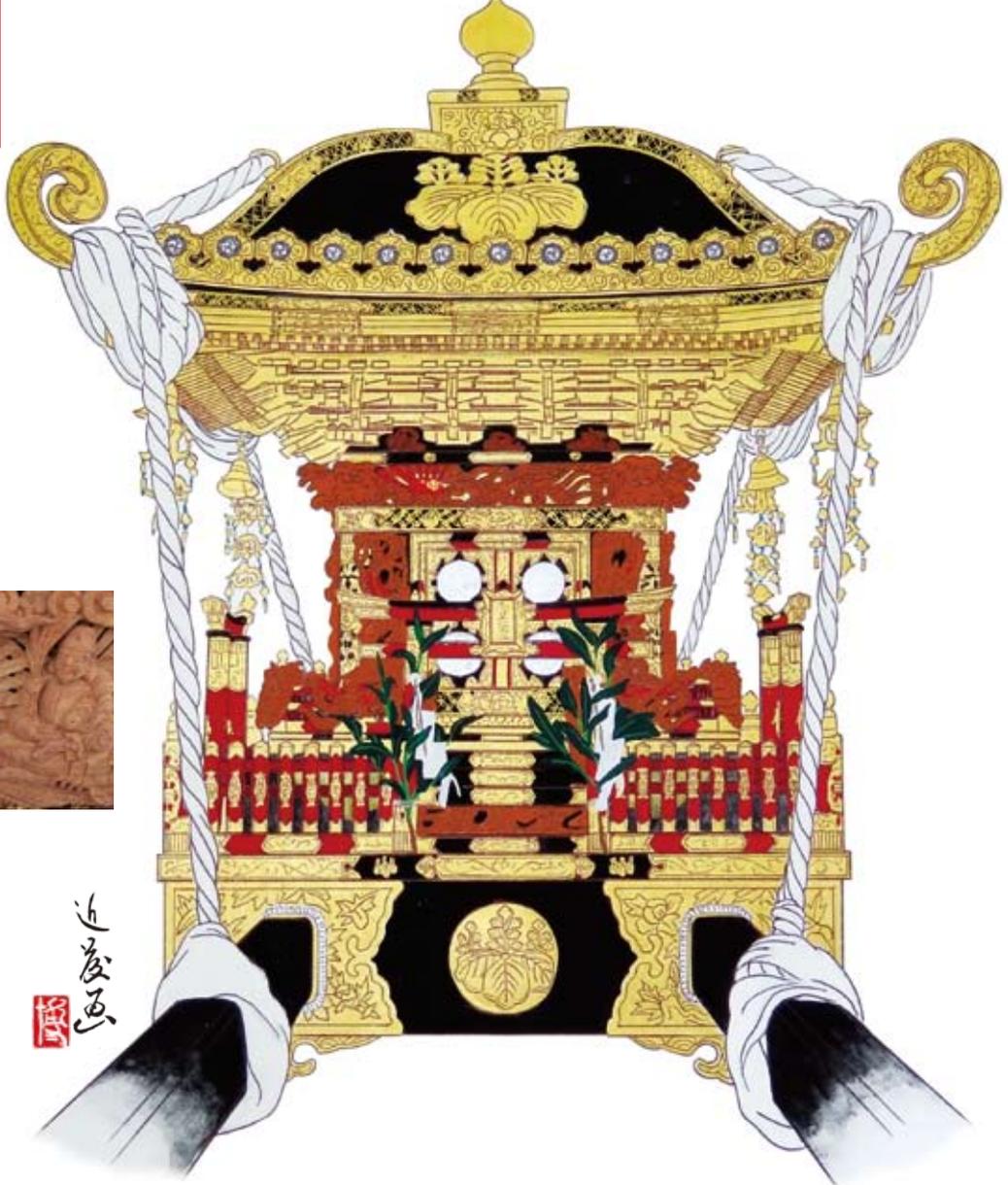
高井地区は館山市の北部に位置し、北条地区では一番古く、古墳時代から生活がされている地域とされています。明治時代の初めに「高井村」「桑原村」「古川新田村」が合併し「高井村」となり、明治二十二年には北条町と高井村が合併されました。現在で

は北条地区内の高井区として近年、新興住宅も増え五百五十戸を超える広い地域です。北端部宮作、宿内には土師器の散布する古墳時代の遺跡があり、八世紀ころ「行基」が、館山に仏教を普及に來られた時の同行人が、高井に居を構えました。神社は高皇産靈神社があり、桑原村にあった天神社を合祀している村社。寺院は善浄寺があり、鎌倉時代の終わり頃に作られたとされる木造地藏菩薩立像を本尊にしており、他に薬師堂があり、境内には幕末の医師高木抑斎の墓があります。

自慢の神輿

高皇産靈神社(たかみむすびじんじや)の神輿は、安房国司祭(やわたんまち)に出祭します。滑るような黒の漆に金の装飾と彫刻が相まったとても美しい神輿です。曲線が優美な延屋根には金箔に施された五七の桐紋が輝いています。胴部正面欄間には朱に塗られた日章の彫刻がつけられ、龍の彫刻が巻きつく居垣は、細部に渡る繊細な彫刻により迫力がさら

に増しています。横の唐戸部にも七福神と高皇産靈神社の鳥居の彫刻が見事に取りつけられております。「高井」の衣装はこの彫刻の日章マークが手甲と鉢巻きにデザインされ、高井のシンボルマークとなっています。平成二十三年には神輿の大改修を行い、両側の唐戸に彫刻が取り付けられ、胴部も高くなり更に重みと高さが増してより大きくなりました。黒と朱の漆と金の輝きがとても美しい、高井地区自慢の神輿です。



近後画



胴に嵌められた繊細な彫刻



綺羅びやかな姿を誇る自慢の神輿

- 屋根: 延屋根方形、普及一直線型、黒漆
- 簾手: 普及型
- 造り: 塗神輿
- 露盤: 樹型
- 杵: 杵
- 杵組: 四行二手
- 胴の造り: 二重勾欄 前後階段
- 扉: 前後扉
- 鳥居: 明神鳥居
- 台輪: 普及型
- 台輪寸法: 四尺
- 制作者: 明治二十五年、丸山町の神輿職人
- 彫刻: 三代後藤義光(階段部分の「波に兎」は後藤義光か)
- 見処: 階段部分の波に兎の彫り物